

# 保育施設に求められる職場環境と 組織作りに関する研究

—保育専攻学生の就職意欲向上にむけて—

新保 友恵

本稿の目的は、第1に保育実習が保育専攻学生のキャリアデザインに影響を与える要因について明らかにすること、第2に保育実習の観点から保育施設の職場環境や組織作りの実態を調査し、保育士が長く働き続けることが可能で且つ採用活動も順調な保育施設の特徴を明らかにすることである。考察には、東京都内保育士養成校キャリアセンターでの学生の相談内容記録及び保育士養成校である信州豊南短期大学幼児教育学科学生に対するアンケート調査、関東地方の私立保育所で実施した保育実習の非参与観察とインタビュー調査のデータを用いる。

本稿で明らかになったことの第1は、大多数の保育専攻学生は不安を持ちつつ保育実習に参加していること、そして保育実習で保育の現場を体験する中で、一部の学生は保育施設職員との関わりや保育施設職員間の関係性を目にしたことをきっかけに動揺し保育職に就かないという選択をしていることである。つまり、保育士養成校に通い保育士資格を取得する為には保育実習が必須であるが、それだけにとどまらず、保育実習先の職場環境が保育専攻学生のキャリアデザインを左右し大きな役割を担っていることである。第2には、人材育成・採用が順調な保育施設では、マニュアルや評価システムで縛りつけるのではなく、職員への権利委譲が進められており、同時に職員間において業務負担の分散が適切におこなわれている特徴が指摘できる。このような、保育士職員がやりがいを感じるとともに過度な負担を感じることはない職場環境において保育実習が実施されれば、保育実習生の保育職への就職意欲は高まり、結果として

受入保育施設の安定的な人材採用に繋がるという良い循環が生まれることが調査から示された。今後も、観察やインタビューを続け、よい保育実習とは、よい働く場とはということについて研究をおこなっていきたいと考えており、本研究は、その中間報告である。

キーワード：保育施設の職場環境、職場定着、業務負担感、潜在保育士、保育実習、保育専攻学生のキャリアデザイン、保育士養成

## 1 問題の所在

### 1.1 待機児童問題解消のために必要とされる保育施設の整備と保育士不足により定員を増やせない保育施設

子育てをしながら働く人にとって大きな社会問題である待機児童は、厚生労働省によれば平成 29 年 4 月時点で全国に 26,081 人とされ前年比 2,528 人増加している<sup>1</sup>。その解消に向けて、待機児童解消加速化プランとして保育施設の整備が進められている<sup>2</sup>。保育施設運営における大きな課題として、保育に必要な不可欠である保育士の確保についてが挙げられる。独立行政法人福祉医療機構が全国の保育施設を対象に平成 28 年 9 月に実施したアンケートによると、保育士ら職員が不足している施設が 25.0%に上り、職員不足と回答した施設の 18.3%が利用者（児童）の入所を制限しているという回答であった<sup>3</sup>。このアンケートの結果からも、保育施設の建物を整備するだけでは待機児童問題の解決には至らず、深刻な保育士不足を解消することが急務となっていることが指摘できる。

### 1.2 保育士不足・潜在保育士

厚生労働省は平成 29 年度末までにあらたに 8.9 万人の保育士採用が必要と試算している。一方、保育士の資格をもちながら保育士として働いていない潜在保育士<sup>4</sup>は、厚生労働省推計で全国 75 万人以上とされる<sup>5</sup>。

全国社会福祉協議会全国保育士会によると、保育士・保育教諭が誇りとやりがいを持って働き続けられる新たなキャリアアップの道筋について、現状では、参考となるべき仕組みに関する情報は少なく、各法人それぞれが独自に検討・実施している状況にある<sup>6</sup>。

### 1.3 保育専攻学生が保育士にならない(潜在保育士となる)割合とその理由

潜在保育士の中には、保育士養成校を卒業し保育士資格を取得したものの一般企業へ就職する等し、一度も保育の仕事に携わらなかった者も含まれる。

保育専攻学生のうち、卒業後、保育職<sup>7</sup>に就かない割合は、厚生労働省雇用均等・児童家庭局保育課調べによると21%である<sup>8</sup>。マイナビサーポートネットが、保育系の学校に通っている又は志望職種が保育士の学生に対しておこなったアンケートによると、保育士資格を取得した学生が保育士資格を活かして働きたくないと思う理由(複数回答)として、「実習を通じて向いていないと感じた」が「給料が低い」に次いで多く挙げられ、全体の51.4%であった<sup>9</sup>。筆者が保育専攻学生から進路相談を受ける中でも、保育職から一般企業への就職等に進路を変更した学生からは進路変更のきっかけとして保育実習での経験が多く挙げられた。

## 2 保育専攻学生のキャリアデザインと保育実習

### 2.1 都内保育士養成校保育専攻学生の進路変更

1.3で述べたように保育実習は保育専攻学生の進路選択に大きな影響を与える。筆者がキャリアカウンセラーとして進路相談を受けた東京都内保育士養成校保育士養成コース学生は入学時には全員が保育職への就職を希望していた。にもかかわらず、例年、養成校を卒業するまでには一部の学生が進路を変更している。2015年9月～2017年6月に、同保育士養成校キャリアセンター内における進路相談を受ける中で、保育実習に参加し保育士資格を取得予定ではあるものの、保育職から一般企業への就職に進路を変更し保育職とはならない、

いわゆる潜在保育士予備軍の学生からは以下のような声が聞かれた。「保育園に実習に行ってみて、職員同士の関係が密であったり、先生が休めていないため大変そうに感じ、保育職ではなく一般企業への就職を希望している。」「就職活動はしていない。実習で保育の現場を見て、保育の仕事自体やりたくなかった。フリーターになる。」「実習先で職員に『あなたは保育士向いていない』と言われ辛かった。実習を終えて保育士資格は取得見込みだが就職活動などは何もしていない。」「実習時、日誌記入に苦戦した。空欄がないように埋めて、養成校実習指導教諭からは『これだけ書けていれば大丈夫。』と言われたにも関わらず、保育園の実習担当保育職員には書き直すように指導された。そういったことから、もう子どもと関わりたくないと思うようになった。」こうした声からも、保育専攻学生が進路変更をする際には保育実習での経験を要因として挙げる傾向が指摘できる。いずれの事例でも、保育実習において、保育の現場を見て、体験したことにより、自身がその場で働き続けるイメージが持てなかったこと、働きたいと思えなかったことが述べられている。そのきっかけとして、保育施設保育士職員の対応や保育士職員間の関係性に接したことが挙げられる傾向が多く見られた。

## 2.2 保育実習未実施の保育専攻学生

2.1 では、保育実習を経験した保育専攻学生の進路選択への影響要因として保育実習が挙げられる事例について述べた。しかしながら、保育実習で現場に出る前の保育学生も保育実習に対する不安を既に持っている。本節では、保育実習実施前の保育専攻学生に対する保育実習に対する位置づけに対するアンケート結果についても注目したい。

2017年7月24日、信州豊南短期大学幼児教育学科1年生全員44名に、社会人基礎力演習講座の中でアンケート調査を実施した。この44名は、短大において保育実習は未実施であり、2017年8月以降に保育実習参加予定である。社会人基礎力演習講座は2017年4月10日から7月24日の毎週月曜日に全

15回で、学科1年次全学生44名を22名ずつの2クラスに分けて構成された。前半6回までは自分自身や社会についての知識や理解を深め、7～9回にはキャリアモデルケーススタディ、10回～14回は社会人インタビュー、プレゼンテーション訓練、15回は授業全体の振り返りとともにアンケート記入を実施した。到達目標は、「積極的に人の話を聴き、自分の意見をわかりやすく伝えられる」「社会で求められる力やPDCAサイクル<sup>10</sup>を理解し、意識して行動することができる」「自己理解、社会理解を深め、将来に向けた行動計画を立てられる」と設定した。学科の卒業必修科目で単位は1。成績評価は、プレゼンテーションへの取組姿勢、提出課題・コミュニケーションシートの内容を元におこなった。

### 2.2.1 保育実習に対するイメージ

アンケートの中で「保育実習については、どんなイメージがあるか？」という質問項目(自由記述)では、保育実習に対するイメージに対して、「怖い」「きつい」「大変」「厳しい」「悩む」「どうしていいかわからない」というネガティブなイメージを含む言葉を含む回答をした学生が44名中20名いた。一方、「楽しそう」「大切な」「良い機会」といったポジティブなイメージを含む言葉を使用した学生は44名中8名と少なく、ネガティブな表現を使用する傾向が多く見られた。「大変だけど、これからのためになる」といったネガティブなイメージを含む表現を示しつつも前向きなイメージも持つ学生は8名であった。

具体的なイメージの対象としては、受け入れ保育施設の指導担当者の対応や実習現場の人間関係に対する記述が含まれるものが10名おり、その中には「先生方が怖い」「先生方が厳しい」といった実習担当職員の厳しさに対してネガティブで不安を含む表現と「現場の先生から話を聞くことができる」といった期待感の表現が含まれていた。中・高生時に職場体験ボランティアにおいて保育施設で職場体験をおこなった学生は、その際の経験と比較して「ボランティア時とは違い、接し方も、一人で出来ることも増えている」「責任がある」とい

ったボランティア時との違いをイメージとして挙げている記述があった。また、「アシスタントのような仕事が多い」「一人の先生として扱われる」「先生として見られる」「体験ではなくて、指導(する立場)に変わる。」「先生という立場に立って学ぶ」「立ち位置に悩む」といった実習生としての自身の立場に着目した記述も見られた。そして、「大学での学びを实践する場」「勉強になることが数えきれないほどある」「学校では学びきれないことを学ぶ」といった保育実習を通して得られる新たな経験やそこでの学びを意識する意見もあった。

## 2.2.2 多くの保育専攻学生が抱える保育実習の不安

口頭で「不安や気になることがなければ、ないと記載するように。」と伝えながら、「保育実習に向けて不安なことや気になることは？」という質問項目を自由記述形式でのアンケート記入を実施した。44名中「ない」と記載した学生は1名のみで、その他の43名の学生は、保育実習に関する不安や気になることを回答した。

不安や気になることの内容としては、大きく分けると「自身の実技・技術」と「コミュニケーション」の2つに分けることができた。「自身の実技・技術」に関しての不安は、具体的には「ピアノ」に関して6名、「指導案・実習日誌」に関して6名、自身の「体力」に関するものが3名、「読み聞かせ」に関して2名であった。また、「根本的に行く資格があるのか」「自分が向いているのか」といった自身の資質に関する全般的な不安が3名であった。「コミュニケーション」に関しての不安は、「ケンカや揉め事を止められるか」「叱ることができるか」「怪我をさせないか」「しっかりと向き合えるのか」といった子どもとのコミュニケーションにおける不安が15名、受け入れ保育施設の指導担当者とのコミュニケーションに対する不安が8名、保護者や大人とのコミュニケーションに対する不安は3名、その他に人全般と接する不安を挙げていたものが3名であった。

### 2.3 保育専攻学生のキャリアデザインに影響を与える保育実習に関する小括

保育専攻学生は、ほぼ全員が保育職を目指して保育士養成校に入学している。大部分の保育専攻学生は進路変更を希望せず、そのまま保育実習に参加している。しかし、保育実習未実施の保育専攻学生の大多数が保育実習に対する不安をかなり抱えているということも2.2で示したとおりである。また、1.3、2.1で示したとおり、保育実習がきっかけで保育士になることを諦める保育専攻学生がいる。一方で、保育実習で自身のロールモデルを発見したり、保育という仕事の素晴らしさに触れ、実習先の保育所を就職先に選ぶ学生も多数存在している。

保育士養成校に通い保育士資格を取得する為には保育実習が必須であるが、それだけにとどまらず、保育実習先の保育施設の職場環境・保育士職員の実習生に対応する方法が保育専攻学生の進路志望・キャリアデザインを左右する重要な役割を果たしていると考えられる。

次章では、保育士養成に求められる保育士施設の職場環境と組織作りについて検討していく。

## 3 保育施設の職場環境と組織作りに関する実態

2章で指摘したように保育実習は保育専攻学生のキャリアデザインに影響を与える。具体的には、実習をおこなう保育施設での人間関係とその人間関係を支える保育施設の方針が重要と考えられる。1.2で述べたように、保育施設において保育士が誇りとやりがいをもって働き続けられる職場環境や組織作りに関して、各法人が独自に検討・実施している状況にあり、参考になる情報が少ない。そこで、2017年8月～9月に関東地方の私立保育所4か所において保育実習の非参与観察と施設長等採用責任者に対するインタビュー調査を実施した。その中で、人材採用・定着が順調な社会福祉法人A保育所の特徴を抽出した。

A保育所の職員は38名で、勤続平均年数が16年である。これは全国の保育士平均勤続年数7.7年<sup>11</sup>の2倍以上にあたる。A保育所では保育士養成校

学生からの実習希望が多数あり、全ての実習希望者を受け入れられていない。2017年度は希望者の中から6名の保育専攻学生を実習生として受け入れる予定である。そして、2015年度・2016年度の新卒採用募集は各1名で、いずれもA保育所で保育実習をおこなった者の中から採用がおこなわれた。

関東地方などの採用難地域では、保育士を採用したい保育施設採用担当者は、保育士養成校に対して、求人だけではなく保育実習生の派遣に関しての依頼にまわっている例が多くある。一方、A保育所は、そういったリクルーティングをおこなわなくとも、実習希望者・就職希望者が毎年多く集まり、その中から選考して実習受入れ、採用をおこなっている。A保育所は、平均勤続年数も長く人材が定着し、新規の採用も順調におこなえている保育施設であり、保育士養成に求められる保育施設の職場環境と組織作りのモデルケースとして、2.2.2で挙げたような学生の不安を解消し、比較的上手くいっている保育施設を考察するため事例研究の対象とした。

### 3.1 保育施設の人間関係

2017年8月28日と9月5日に、A保育所の保育実習の非参与観察を実施した。

2017年8月28日の非参与観察における保育実習生aは、関東地方所在四年制私立大学の保育専攻学生3年生で20歳、女性、A保育所の卒園生ではなくA保育所と同自治体内在住である。はじめての保育実習(見学実習)初日であった。当日の実習クラスは1～2歳児クラス(在籍児童12名のうち10名出席)で、実習担当保育士は2名(40代女性、60代女性)であった。

2017年9月5日の保育実習生bは、関東地方所在私立短期大学の保育専攻学生2年生で19歳、女性であり、A保育の卒園生でA保育所同自治体内在住である。保育実習(参加実習)2日目であった。2017年5月にA保育所において2週間(10日)の見学実習の経験がある。当日の実習クラスは3～4歳児クラス(在籍児童14名のうち14名出席)で、実習担当保育士は1名(20代女



性・就職2年目)であった。

記録はICレコーダーとビデオカメラによって音声と動画の記録をおこない分析を実施した。

### 3.1.1 実習中の保育実習生の状況分析

2017年8月28日、9月5日いずれの観察でも、A保育所の特徴として、職員のフレンドリーさ雰囲気オープンさが強く感じられた。他の観察をおこなったいずれの保育施設でも、児童の保護者や筆者のような外部の人間を見かけると保育士職員は皆、笑顔で挨拶がおこなわれていたが、A保育所以外では挨拶以上に積極的に話しかけてくることはなかった。一方、A保育所では、保育実習生だけではなく観察者である筆者に対しても、在住地域、訪問理由等について質問をされることが複数回あり、そこから天気の話など、いわゆる世間話も自然におこなわれていた。また、A保育所で児童送迎時の児童保護者に対しても、担任保育士職員以外の保育士職員からの挨拶以外の声かけの様子も複数見受けられた。A保育所では、保育士職員がリラックスしており、実習中の保育実習生a、bも他の保育所と比べてリラックスしている特徴を見ることができた。

そして、A保育所では、保育実習生に対する保育士職員の対応が臨機応変で画一的に感じることはなかった。そのため、実習生も自然に質問がしやすい雰囲気が作られており、他の園に比べて実習生は主体的に自身の疑問を解消するために質問が多くおこなわれていた。aの場合、昼食時を中心に9時間の観察の間、37回質問がおこなわれていた。これは、他園観察時の6時間中5回に比べて極めて多かった。

A保育所では、実習生は保育士職員に対して多くの質問をおこなっており、それに対して保育士職員は大変親身に回答・対応をおこなっていた。対応する保育士職員は実習受入にあたって事前に実習受入に関する研修を受講しておらず、実習受入を担当することによるインセンティブや目標設定も一切ないとの

ことだった。

A 保育所において保育士職員が親身になって実習生の対応をおこなっているのは、保育士職員自身が安心して心地よく納得のできる働き方ができているからなのではないかと考えられる。保育士観察の中で、A 保育所を一度退職し他保育施設勤務経験のある保育士職員にA 保育所の特徴についてたずねたところ「上の人（A 保育所主任、副主任など責任者）がいざとなったら守ってくれる安心感があり働きやすい。」という回答があった。また、別の保育士職員から「A 保育所は毎年募集があるわけではなく、私が新卒時は募集がなく入社できなかったので、他保育所に1年勤めながらA 保育所の求人募集が出るのを待ち1年後に入社した。」という話を聞くこともでき、それぞれの保育士職員が納得し安心して働いている様子が見受けられた。これは、前述したようにA 保育所の勤続平均年数の長さ、定着率の高さにもあらわれていると考えられる。

## 3.2 採用責任者へのインタビュー調査

3.1.1 で述べたように、A 保育所では保育士職員が納得し安心して働いていることにより、保育実習生も安心した状態で実習をおこなえていることが観察された。本節では、そのA 保育所の採用責任者cに対して、保育実習の視点から組織作り・職場環境に関する項目を中心にインタビューをおこなった。cは60代女性であり、保育士資格を保有している。インタビューは事前に研究の概要と質問項目例をcに対して郵送をした上で、2017年9月5日にA 保育所内で実施した。インタビューの形式は半構造化で、約100分間ICレコーダーによって音声録音をおこない分析した。

### 3.2.1 実習受入時の対応を担当する職員へのマニュアルや研修の有無

A 保育所は、保育実習受入にあたり、受入側の職員に対するマニュアルは特に用意しておらず、保育専攻学生の在籍する学校名と氏名と実習の種類、何回目の実習かのみ伝えられている。

尚、保育実習生 b は 2 回目 2 日目の実習で、担当保育士職員は観察時点では実習生 b に関する上記情報について把握ができていたが、保育実習初日の保育実習生 a の際は、実習生の上記情報も、観察時には、受入担当職員には、きちんと伝わっていなかったが実習はスムーズにおこなわれていた。

A 保育所以外の観察・インタビューをおこなった保育所では、実習受入時のマニュアルや実習の意義・位置づけについて記載された書類が存在していた。しかし、実習後に就職希望する学生が多い A 保育所では、むしろマニュアルや実習生に関する情報が共有されていなかったのである。

### 3.2.2 実習時に接する職員の人数

A 保育所では、1 回の実習 10 日間前後のうちで実習生 1 名に対応する職員の数は、10～15 名程度という回答だった。他園では、実習期間中は毎日、責任者（園長や採用責任者等）が 1 日の始まりと終わりにフォローを行われていたが、A 保育所では、実習の責任者が 1 日の始まりと終わりにフォローをおこなっておらず、各クラス担当の保育士職員に日誌の書き方などを含めて基本的な対応が全て任されていた。ただし、園全体の方針に関わるような質問で担当保育士職員では対応できない要件の場合は、担当保育士職員から保育実習受入責任者の副主任に取次対応を依頼していた。

1 人の実習責任者に対応を任せるのではなく、日によって対応者を変えて、複数の保育士職員に対応をさせる理由として、c の回答は「人間関係が濃くなるのは良いことがない。」という考えからということであり、業務の負担を物理的にも心理的にも的確に分散することが考慮されている。

### 3.2.3 保育所責任者の実習に対する意識

保育実習を受け入れる目的については「指導する保育士職員のモチベーションアップのため。」「採用につなげるため。具体的には採用するかの見極めがしやすい。」という回答が c からはあった。

実習を受け入れるにあたっての意識をたずねたところ「実習生には完璧を求めない。足りないところがあったら伝えるのは入社してから。入社してから学んでいけばいい。」「実習は、実習をする学生を応援するという気持ちで受け入れている。職員に幸せになって欲しいと思っているように、実習生にも同じ気持ちで接している。」との回答があった。そして、全ての実習希望学生を受け入れできない場合は、卒園生や中学時職場体験でA保育所に来たことがある学生を優先して選んでおり、その理由としては、「彼女達（A保育所卒園生などの実習希望保育専攻学生）の幸せにする責任が自分達（A保育所）にはあると思うから。」と述べていた。一方で「そういう理念があるにせよ、他の保育所よりも実習生に対して甘いところがあるのかもしれない。指導や評価をサボタージュしているということなのであろうか。」という自問もあるという回答もあった。

### 3.2.4 保育所責任者自身の役割に関する意識

保育所の園長等責任者は多くの役割を担っている。対応する相手として、園児・保護者・自治体・地域・職員・業者等多方面に渡る。そして、相手先毎に対応すべき項目が多岐に渡る。例えば、対応先として職員については、人材採用、人材開発、人事評価、人材配置などに保育所の責任者は携わる。

インタビューをおこなった全ての保育所において「園長の役割は、例えば教育者、経営者と多岐に渡るが、あなたの役割は何か？」と質問したところ、A保育所以外の全ての保育所責任者からは「経営者でもあり、教育者でもある。」という回答であった。一方、A保育所の責任者cの回答は「自分は、経営者であり教育者ではない。」という自己の役割意識に対する見解が特徴的だった。その理由として「教育・園児との対応は各保育士（保育士職員）に任せている。」「保育士（職員）が働きやすくすること、それに自分自身は注力している。」という意見であった。

## 4 おわりに・今後の課題

待機児童の多い都市部では保育士の採用難と勤続平均年数の短さが保育士不足を招き、保育施設の整備や待機児童の解消の障害となっている。そして、保育士となり得る貴重な人材である保育専攻学生は、保育士養成校入学時はほぼ全員が保育職を目指している、にもかかわらず養成校を卒業するまでには一部の学生が保育職から進路を変更している。2.2で述べたとおり、大多数の保育専攻学生は保育実習に参加するにあたり不安を抱えている。保育実習後、保育職以外に進路変更した保育専攻学生から、進路変更した理由として保育実習生と保育士職員とのコミュニケーション、保育士職員間のコミュニケーションを見た事をきっかけとして挙げる傾向が多く見られた。

1.3、2.1に挙げたように、保育専攻学生の進路選択には保育実習が大きな影響を与えている。もちろん養成校が、そういった理解をした上での指導することも大事だが、受入れ側の保育施設も、将来、保育職を進路選択する学生を増やすためには、A保育所のような配慮が必要であることを理解して保育実習受入れをすべきではないだろうか。

参与観察したA保育所以外の保育施設では、保育士職員へ保育実習受入事前の講習や保育実習に関するマニュアル等が整備されていた。一方、比較的採用・実習受入れが上手くおこなえていると思われるA保育所では、マニュアルの整備や事前研修は実施されていないことが示された。つまり、保育士職員が保育実習生に対して的確な対応をおこなうためには、マニュアルや研修で保育士職員の対応を画一化させることより、3.1で述べたとおり、まず保育士職員が安心、納得して働いているという働きやすい職場環境と組織作りを追求することが重要であるといえる。

日本保育協会が平成24年に全国の保育所の10分の1にあたる2,308ヶ所に調査票を配布し、全国の保育所長を中心に回答1,320件（有効数1,313名）を得た。その中で、保育士が働き続けるために大切なこと（複数回答）の1位にあげられたのは「人間関係のよい職場であること」であり77.4%、2位が「や

りがいのある仕事だと本人が思うこと」で76.1%であり、3位「給料」39.9%以下に比べて高い結果が出ている<sup>12</sup>。一方、2017年10月12日に朝日新聞に掲載された『「なんで保育士の給料は低いと思う？」低賃金で負の循環」という記事<sup>13</sup>に対して、インターネット上で「誰でもできる仕事だからです。」<sup>14</sup>とコメントがあり議論が広まった。保育士が「やりがいのある仕事」だということと「誰でもできる仕事」と思うことは対極の認識である。今後、保育士が誇りを持って働き続けるためには、まずは、社会・保育士・保育専攻学生いずれにおいても、保育士という仕事の重要性についての認識を高めていくことが土台になるのではないかと考えられる。

3.2で述べたとおり、働きやすい保育施設の特徴として、働く保育士職員に、園長等の責任者・管理者からの権利委譲がおこなわれ、保育士がやりがいのある仕事だという意識を持つことができるとともに、業務負担についての分散が適切におこなわれていることが指摘できる。やりがいと業務負担の適切なバランスの中で職員一人一人が考えて力を発揮できる状態を作り出すことが働きやすさの実現につながっていくのである。

保育士職員がやりがいを持ちながら且つ過度な負担を感じることなく働いている保育の現場で、保育専攻学生が実習をおこなうことが、保育専攻学生自らも保育職として働きたい、この保育施設で働きたいという思いを抱くことにつながる。そして結果として、保育実習をおこなった保育施設も安定的な人材採用がおこなえるという良い循環が生まれていると本論文においては推察された。ただし、観察やインタビューを実施したのは4箇所の保育施設のみであり、尚且つその中でA保育所の特徴のみに着目したものであり、研究の途上である。今後は、調査対象保育施設数を増やし、丁寧にデータを取り、保育実習の観点からの良い保育施設とはなにかということについて研究を重ねて仮説を実証していきたい。

〈 註 〉

- 
- <sup>1</sup> 厚生労働省, 2017, 「保育所等関連状況取りまとめ (平成 29 年 4 月 1 日)」
  - <sup>2</sup> 厚生労働省, 2017, 「待機児童解消加速化プラン」
  - <sup>3</sup> 福祉医療機構, 2017, 「『保育人材』に関するアンケート調査の結果について」
  - <sup>4</sup> 「潜在保育士」とは、保育士資格を持ちながらも就業していない人である。なお保育士としての勤務経験の有無にかかわらず、現在保育士として就業していない人のことをいう。(株式会社ポピンズ, 2011)
  - <sup>5</sup> 厚生労働省, 2015, 「第 3 回保育士等確保対策検討会 保育士等に関する関係資料」, 11, 19 - 20
  - <sup>6</sup> 全国社会福祉協議会全国保育士会, 2017, 「保育士・保育教諭が誇りとやりがいを持って働き続けられる、新たなキャリアアップの道筋について保育士等のキャリアアップ検討特別委員会 報告書」
  - <sup>7</sup> 「保育職」とは、ここでは保育者養成校の学生のキャリアイメージを考える中で、学生の多くが就職先とする、「幼稚園教諭」または「保育所保育士」と限定して使用する。
  - <sup>8</sup> 厚生労働省, 2015, 「第 3 回保育士等確保対策検討会 保育士等に関する関係資料」, 17 「指定保育士養成施設種別ごとの保育士となる資格取得者の就職状況」より保育所・児童福祉施設・児童事業・幼稚園以外に就職した数より集計をおこなった。
  - <sup>9</sup> マイナビ採用サポネット HR リサーチコラム, 2016, 「保育系大学生が働く場を考えるにあたって注目していること」
  - <sup>10</sup> 「PDCA サイクル」とは、事業活動における生産管理や品質管理などの管理業務を円滑に進める手法の一つ。「Plan (計画) → Do (実行) → Check (評価) → Act (改善)」の 4 段階を繰り返すことによって、業務を継続的に改善する (竹内薫, 2017: 52) ためのものである。
  - <sup>11</sup> 厚生労働省, 2017, 「平成 28 年賃金構造基本統計調査」, 職種別第 1 表

- <sup>12</sup> 日本保育協会, 2015, 「保育所運営の実態とあり方に関する調査研究報告書  
— 多様な保育事業と保育士の確保 —,
- <sup>13</sup> 西村圭史他, 2017, 『『なんで保育士の給料は低いと思う?』低賃金で負の  
循環』, 「朝日新聞デジタル」, 2017年10月12日09時06分配信(2017年  
11月1日アクセス)
- <sup>14</sup> 堀江貴文(Takafumi Horie), 2017, 「twitter.com 上のコメント」  
[https://twitter.com/takapon\\_jp/status/918358979411034112](https://twitter.com/takapon_jp/status/918358979411034112)  
(2017年11月1日アクセス)



## 5 資料

### 〈アンケート資料〉

---

社会人基礎力演習 復習アンケート(担当:新保友恵)

年 月 日

学籍番号

氏名

【シラバス授業内容】職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な基礎的な力を磨く講座です。

前半は、自分や社会についての理解を深めます。中盤は、諸先輩方の事例をもとに予期せぬできごとをどのように乗り越えてきたのか、自分だったらどうするかを話し合い「生き方」「働き方」について考えます。後半には「キャリアビジョン」を描き発表します。

Q 1. 卒業後の進路志望は？

保育職(保育士・幼稚園教諭)

保育職以外の職業 (職種業種など具体的に記入: \_\_\_\_\_)

未定

テキスト・ワークシート・配布資料を見て振り返りながら各回・全体について回答してください。

Q 2. Q1 の職業に対する志望度(なりたい気持ち)はどのように変わりましたか？

Q 3. 受講前と受講後に自分のどこがどのように変わったか？

Q 4. 新しく知ったことは？

・1週 オリエンテーション、キャリアデザインの重要性 (P.2～9)

A 2. 高まった 最初と同じ 低くなった

その他(詳細 \_\_\_\_\_)

A 3.

A 4.

・2週 コミュニケーション力を伸ばす、聴き方・伝え方、タイムマネジメントについて (P.10～18、76,77)

A 2. 高まった 最初と同じ 低くなった

その他(詳細 \_\_\_\_\_)

A 3.

A 4.

・3週 自己理解、自己分析 (P.19～26)

A 2. 高まった 最初と同じ 低くなった  
その他 (詳細) )

A 3.

A 4.

・4週 自己分析2、強みを伸ばす (P.27～30)

A 2. 高まった 最初と同じ 低くなった  
その他 (詳細) )

A 3.

A 4.

・5週 社会理解 (P.31～37 + 配付資料イチロー・本田圭佑)

A 2. 高まった 最初と同じ 低くなった  
その他 (詳細) )

A 3.

A 4.

・6週 社会が求める人材像 (P.38～45)

A 2. 高まった 最初と同じ 低くなった  
その他 (詳細) )

A 3.

A 4.

・7週 キャリアモデルケーススタディ (ゲストスピーカー紀乃さん)

A 2. 高まった 最初と同じ 低くなった  
その他 (詳細) )

A 3.

A 4.

・8週 キャリアモデルケーススタディ (配布プリント 実習について 漫画)

A 2. 高まった 最初と同じ 低くなった  
その他 (詳細) )

A 3.

A 4.

・ 9 週 キャリアモデルケーススタディ (配布プリント 年代別の保育士の悩み)

A 2. 高まった 最初と同じ 低くなった  
その他 (詳細) )

A 3.

A 4.

・ 10・11 週 社会人インタビュー発表 (P.56、57、71、72、92)

A 2. 高まった 最初と同じ 低くなった  
その他 (詳細) )

A 3.

A 4.

・ 12 週 行動計画を立てる (P66 ~ 69)

A 2. 高まった 最初と同じ 低くなった  
その他 (詳細) )

A 3.

A 4.

・ 13 週 プレゼンテーション準備 (P.70、92)

A 2. 高まった 最初と同じ 低くなった  
その他 (詳細) )

A 3.

A 4.

・ 14 週 行動計画プレゼンテーション実施 (P.70 ~ 72、92、96)

A 2. 高まった 最初と同じ 低くなった  
その他 (詳細) )

A 3.

A 4.

・社会人基礎力演習講座 全体を通して

A 2. 高まった 最初と同じ 低くなった

その他（詳細） )

A 3.

A 4.

Q 5. 今後のキャリアを考えていく上で、ためになったと思う授業は何週目でしたか？（複数回答可）

A 5.

Q 6. 到達目標を確認し、自己評価してください。

【シラバス到達目標】

・積極的に人の話を聴き、自分の意見をわかりやすく伝えられる

できる（ようになった） できない わからない

・社会で求められる力や PDCA サイクルを理解し、意識して行動することができる

できる（ようになった） できない わからない

・自己理解、社会理解を深め、将来に向けた行動計画を立てられる

できる（ようになった） できない わからない

Q 7. これからおこなう保育実習について回答してください。

・保育実習は何のために参加するのか？

・保育実習については、どんなイメージがあるか？

・よい保育実習とは、どんなものだと思うか？

・保育実習に向けて不安なこと気になることは？

このアンケートの回答内容は、成績には関係しません。回答を集計し、今後の指導に役立てます。また、分析結果の公表時等において回答者が特定されることはありません。

## 6 参考文献

---

- 石井昭義他, 2015, 『保育者のためのキャリア形成論』, 建帛社
- 岩崎淳子, 2015, 『千春と大吾の保育実習ストーリー』, 萌文書林
- 神谷哲, 2009, 「保育者養成系短期大学生の保育者効力感の縦断的变化: 実習時期と就職活動を通じた進路選択過程に着目して」, 『キャリア教育研究』, vol. 28 no. 1, 9-17
- 厚生労働省, 2015, 「第3回保育士等確保対策検討会 保育士等に関する関係資料」
- 厚生労働省, 2017, 「平成28年賃金構造基本統計調査」
- 厚生労働省, 2017, 「保育所等関連状況取りまとめ(平成29年4月1日)」
- 厚生労働省, 2017, 「待機児童解消加速化プラン」
- 全国社会福祉協議会全国保育士会, 2017, 「保育士・保育教諭が誇りとやりがいを持って働き続けられる、新たなキャリアアップの道筋について保育士等のキャリアアップ検討特別委員会 報告書」
- 竹内薫, 2017, 「文系のための理数センス養成講座」, 新潮社
- 日本保育協会, 2015, 「保育所運営の実態とあり方に関する調査研究報告書 - 多様な保育事業と保育士の確保 - 」
- 福祉医療機構, 2017, 「『保育人材』に関するアンケート調査の結果について」
- 株式会社ポピンズ, 2011, 「平成23年度厚生労働省委託事業 潜在保育士ガイドブック 保育士再就職支援調査事業・保育園向け報告書」
- マイナビ採用サポネットHRリサーチコラム, 2016, 「保育系大学生が働く場を考えるにあたって注目していること」
- 三浦修子他, 2011, 「人材確保・育成に関する保育士養成校と保育所の連携に関する研究(1)」, 『保育科学研究』, 日本保育協会, 66-73
- 西村圭史他, 2017, 「『なんで保育士の給料は低いと思う?』 低賃金で負の循環」, 「朝日新聞 デジタル」, <http://www.asahi.com/articles/>

ASKBB67D1KBBUTFK023.html (2017 年 11 月 1 日アクセス)  
堀江貴文 (Takafumi Horie), 2017, 「twitter.com 上のコメント」  
[https://twitter.com/takapon\\_jp/status/918358979411034112](https://twitter.com/takapon_jp/status/918358979411034112)  
(2017 年 11 月 1 日アクセス)